

第1回 倶知安町景観計画・緑の基本計画検討会議 議事概要

◎日 時	令和2年7月15日（水） 午後2時00分～午後4時30分
◎場 所	消防総合庁舎2階 会議室
◎出席者	策定委員会：高岸委員、山田委員、坂井委員、辻井委員、大萱委員、笠間委員、古谷委員、佐藤委員、大久保委員、矢吹委員、峠ヶ委員、岩佐委員 傍聴者：12名 事務局：まちづくり新幹線課 福坂課長、遠藤景観室長、星加景観係長、八田係員 コンサルタント会社：(株)KITABA 窪田、百瀬、松田

1. 開会

2. 委嘱状の交付

3. あいさつ（町長）

- ・本日はご多用の中、倶知安町景観計画、緑の基本計画検討会議の委員をお引き受けいただいたこと、また、本日の会議にご出席いただいたこと、心より感謝申し上げます。
- ・7月9日、倶知安町文化福祉センター大ホールにて景観まちづくり勉強会を開催した。勉強会ということで参集範囲は町議会の議員の方、役場職員の方、委員の方など100名以上集まった。大変有意義な勉強会をさせていただいたこと、心より感謝申し上げます。
- ・ご講演いただいた笠間先生におかれても、景観という分かりづらい部分を分かりやすく、倶知安がこれからどう向き合っていけば良いかというヒントを与えていただいた。今後2年間のキックオフとして良い話を聞けたと思っている。今後ともよろしく願いたい。
- ・さて、本町においては平成12年頃から、ニセコひらふ地区における大型のコンドミニアム計画などが次々と出され、新たな建物が建設されてきている。もともと規制やルールが手薄だった地区において、無秩序な開発がされている。
- ・それに対して平成18年に、もともとあった「倶知安の風景を守り育てる要綱」を全面改正し対処してきた。
- ・さらにその2年後の平成20年に、準都市計画区域の指定、景観地区の都市計画決

定を得て、法的な根拠をつけることができ、着実に取り組んできた経緯がある。

- ・しかしながら、それから 10 年以上がたち、北海道新幹線倶知安駅開業に向けて、また現在進められている高速道路の建設の着工の計画がある。高速交通網への大きな期待を反映し、ニセコひらふにおいては、海外からの投資、あるいは国内からの投資もより一層活発になってきており、国内外問わず大変注目されている。地価の高騰だけでなく、ありとあらゆる面で注目を集めている。
- ・また、市街地においては、まだ新幹線駅や高速道路ができていないにも関わらず、住宅地を含めて地価が上がってきている。アパートの建設ラッシュも続いている。
- ・その反面、急速な開発による自然環境や公共インフラへの圧力、影響は大きい。土地の所有者や住民においても、出入りが頻繁に行われており、誰が住んでいる土地か分からないような状況にもなっている。
- ・昨今の新型コロナウイルスは、収束するまでにはかなりの時間がかかるという前提の中で、これから私たちは生活していかなければならないし、感染拡大防止を同時に進めなければならない。先の見通せない不安を抱えながらも、時間は過ぎていくため、「今後どのように生活をしていかなければならないのか」という課題がある。
- ・こうした中ではあるが、改めて原点に立ち返り、まちの魅力をもう一度見つめ直して、そのうえで倶知安町に関わる全ての人々がこの地に誇りと愛着を持ち続けられるまちづくりを目指すために、景観計画において、景観づくりの理念・方針を明確にする、そしてその土台のうえに個別具体のルール化を図りながら、まち全体が主体性をもってまちづくりに取り組む姿勢を内外に示して参りたい。
- ・本日第 1 回目の会議ということで、イメージを共有する意味で、倶知安町の成り立ちなど矢吹委員によるお話をいただきながら、意見交換を行っていただき、役員の選出、検討の体制やスケジュールなど、今後の活動方針についてご説明申し上げる。
- ・皆様の任期は、再来年令和 4 年の 3 月ということで、大変長きにわたる。これからの日々の変化の中でもますます活発になると思っている忌憚のない意見をいただきたい。今後も本町の景観におけるまちづくりの推進に反映していきたいため、ご協力を心よりお願い申し上げます。

4. 委員自己紹介及び事務局の紹介

(矢吹委員)

- ・この後、時間の許す限りとは言っても退屈するため、短い時間お話しさせていただく。私の方もいくつかお話をお聞きしたいと思っている。

(岩佐委員)

- ・代市（よいち）とはなかなか読んでもらえないが、余市町の余市とかな表記は同じである。
- ・町民になって日が浅く、4 月 1 日に町民になったばかりである。委員に選出して

ただき、感謝申し上げます。

- ・生まれは福井県福井市。18 歳からは神戸市に住んでおり、大阪の大学で研究に従事した。定年退職を迎え、一層自由になったため、倶知安に移った。
- ・17 年前に花園スキー場のすぐ近くに家を建て、夏冬は行き来していた。個人的には、倶知安町とはそれなりにお付き合いさせていただいている。
- ・まちづくりには、よそ者、若者、馬鹿者の視点が大事だと言われると思うが、気持ちは若いので、この3要件に合致していると思っている。勉強もしたいと思っている。

(大久保委員)

- ・仁木町生まれ。2003 年にニセコひらふで初めてコンドミニアム事業を始めた。その後、全国で悪徳ディベロッパーなどが話題となった時期があり、親戚には「お前の会社大丈夫なのか」などと言われながら、少しずつ地域の方々にも納得していただきながら進めている。
- ・準都市と景観地区は、平成 18～20 年にかけて毎週のように地域の方、役場の方々と打合せをして出来上がった。そういった経験もあり、5 年前に独立し、今は倶知安・ニセコを中心に不動産会社をさせていただいている。
- ・色々なところで講演依頼を受けてお話ししているが、自分としては、ニセコエリア、倶知安というのは、北欧型を目指していけば良いと思っている。それは、地域経済と環境と観光産業が上手にかみ合っていることである。それがこの会で反映できればと思っている。

(佐藤委員)

- ・2 年間よろしくお願いしたい。

(高岸委員)

- ・早い段階で、倶知安町景観審議会では会長をやらせていただいていたが、大して意見もまとめられずご迷惑をおかけしたと思っている。
- ・引き続き、検討会議も参集させていただきましたので、精一杯頑張りたい。

(山田委員)

- ・岩佐さん同様、移住者である。今年で移住して 23 年経った。もう移住者とは言えないかもしれないが、非常にこのまちが好きで、移住する前から毎年スキーにツアーで来ていた。移住して良かったと思っている。
- ・今後ともよろしくお願いしたい。

(坂井委員)

- ・このまちで生まれ育った。今後未来につないでいけるまちづくりということで、計画検討会議のメンバーに携わることができ、感謝している。
- ・しっかり検討していきたい。

(古谷委員)

- ・2年間よろしくお願いしたい。

(峠ヶ委員)

- ・倶知安の駅前通りで、複合施設「Camp&Go」として2009年にオープンした「スプラウト」というコーヒーショップと、昨年12月15日にオープンしたオーガニックフードのお店、「水野自転車店」という自転車のお店、ランニングショップ、ギャラリーとフリースペース、全部で5つのスペースを管理している。
- ・それぞれ経営者があり、小さな店を集まりであるため、自分たちのやっていることで精一杯ではあるが、小さな店からの意見を景観計画に反映できたらと思っている。

(笠間委員)

- ・寒地土木研究所は、もともと北海道開発局の附属の研究所であった。インフラは皆さんの生活を支えているものである。皆さんの生活を支える以上は本当に良いものでなくてはならないという考えのもと、まちの魅力を高めていくまちづくりやインフラ、計画を研究している。
- ・私自身、関東生まれ関東育ちで10年程前にこちらに移ってきた。関東などあちらの環境と北海道の環境は大きく違う。まちづくりや景観、魅力を成り立たせているものも、関東は人間がつくりだしたものが大きく占めているが、北海道は自然がベースにあると思っている。
- ・それらの知見を活かして皆さんと議論していきたい。

(辻井委員)

- ・株式会社アトリエアクに所属しており、建築設計を主にやっている会社である。倶知安町さんにおいては、小川原脩記念美術館がある。
- ・私は設計というよりは、まちづくりや景観を含めた環境づくりの方面が畑で、建築の方にもそういった視点を取り入れながら良いものをつくっていこうと考える会社である。
- ・2年間よろしくお願いしたい。

(大萱委員)

- ・北海道へ移住してから26年と、人生の中で一番長い時間を過ごしている。

- ・故郷は、飛騨高山である。18歳まで過ごし、東京へ出て大学へ行き、建築学科で勉強し、良い大学時代を過ごした。その後も研究生になり、研究室でやっていた設計の仕事を手伝っていた。色々あって建築が嫌になり、工業デザインの勉強をしたいと柳宗理先生を紹介していただいた。それも1年2か月で、建築の方が面白いと改めて思い直した。ただ工業デザインの手法を体験したことは人生の糧になった。
- ・フィンランドにアルバ・アアルトという有名な建築家がいるが、彼の作品が好きで、その建築を見たいという欲求が強く、留学生試験を受け4年間日本を離れた。民間の設計事務所で2年間おり、その後ドイツに移り、1年少し経った。インドへ行ったり、バスでアジア・ヨーロッパ間が行けたので長旅をしたりし、あちこち見ながら20代の終わりに日本へ帰ってきた。
- ・当時の日本は終身雇用制度だったため、途中採用という制度がなく、就職が難しかったので、1級建築士をとり、設計事務所を開いた。30歳のときに看板を掲げたが、仕事はなく、そのうち恩師が気にかけてくれて、代役のような仕事をして色々なことにチャレンジした。
- ・その後、恩師の清家清先生から電話があり、札幌市立高等専門学校をつくるという話で、嫌いじゃなかったら北海道へ行かないか、という話だった。審査を通り、20年前にこの地へ来た。
- ・そのときは、広い空、おいしい食事、明るくて優しい人々がとても良いと思った。男女の差別がないとも感じた。そのとき、北海道で骨をうずめたいと思った。それ以来、良い時間を過ごさせてもらっている。
- ・今後ともよろしく願いしたい。

5. 講話『モノ・ヒト・バ ―自然と文化のタカラモノ』

矢吹 俊男 委員

※ 講演録は別紙

6. 意見交換

(大萱委員)

- ・アンケートでは、好ましい結果がでて思うように思う。住民もきちんと景観に対する思いを持っていることが分かった。
- ・急速に変化が起こっているということも理解できた。景観づくりは時間をかけて取り組んでいくものであるが、現在の開発のスピードに間に合うのか危惧される。短い時間で多くの開発が行われることは、多くの都市で見られる状況であったが、北海道はゆっくりとした開発が多くあまり見受けられなかったように思う。
- ・近年の社会変化は想像もつかなかったことであり、今後の変化も予想できない。マイナスに変化してしまったことも多くあるが、今後も変わり続けていくことを想

定した方が良い。

- ・今後の変化を考えると、都市の在り方が根本的に変わっていくことが予想される。例えば、経済優先よりも自然を大切にするような考え方が広まるなど、今後の人々の価値観や社会変化、都市の在り方のイメージを見定めながら、景観づくりを進めていくべきであると思う。

(岩佐委員)

- ・矢吹委員から「倶知安駅を出て見えた街並みにはがっかりしたが、羊蹄山を見て移住することを決めた」という発言があったが、同意である。
- ・冬のスキー場などの景観は素晴らしいと思うが、夏場のダウンタウンには少しがっかりさせられる。
- ・アンケート調査でも、「自然の景色」「スキー場の夜景」については重要な景観であるという意見が多いが、「市街地の景観」についてはあまり意見が少ない。街並みをいかに美しい景観形成を進めていくかも重要な点であると思う。
- ・新幹線延線に係る駅舎や駅前広場の再整備についても、高架橋の位置などが今後設定されていくと思うが、駅前として景観に配慮したものにして欲しい。
- ・アンケート調査では、「開発行為を押さえるべき」という意見もあるが、「開発＝悪」という考えではなく、あまりにも大きい建物はセットバックさせるなどの配慮は必要であるが、質の高い形態・意匠の建築物を誘導させていくようなものが良い。
- ・建蔽率や容積率を緩和させるようなインセンティブを与えるなどをしながら、ゆとりのあるまちづくりを進めていくと良いのではないか。

(遠藤委員)

- ・リゾート地区の開発については、規制誘導を進めていく必要性を感じている。
- ・新幹線の新駅についても、アンケート調査でも意見も聞いているが、加えて、市街地景観部会でも検討してくことを想定している。

(町長)

- ・P10の建築確認申請のグラフがあるが、概ね右肩上がりが増えていく。特にアパートの申請件数が増えており、市街地の建物も増えている一方で、町の人口は増えていない。外国人登録は増えているが、日本人人口は減っている傾向がある点は他都市とは決定的に違う点である。本来の意味で定住している人口は増えていないというところは共通認識として持っていただきたい。
- ・朝起きたときに、目の前に羊蹄山・ニセコ連邦があるということは、倶知安町最大の魅力である。例えば、平屋一階から羊蹄山が見えなくなるような建物が建った際に「景観が悪くなった」と感じる住民もおり、「景観」の捉え方は人それぞれであることも踏まえながら、検討を進めていきたい。

(岩佐委員)

- ・アパートの需要が上がっていることに伴い、賃料も上がっているのか。

(町長)

- ・アパート建設の利用については、新幹線の工事やリゾート関係の仕事で従業員が増え、街中にアパートを建設し、企業で借り上げて住んでいることもある。
- ・もともと、倶知安町は公務員が多く、豪雪に耐える建築コストもあるため、家賃は比較的高いのではないかと想定される。

(笠間委員)

- ・「景観」の捉え方については、町として「どういう暮らしを目指すのか」という点が重要になってくる。そのような視点で議論を進めると、個人の中にある「良好な景観」が共通認識しやすいのではないかと考える。

(辻井委員)

- ・「暮らしの姿」が景観であり、「景観」とは住む方の身だしなみであるという考え方もある。アンケート調査でも雪処理の仕方についての意見も見受けられたが、例えば、積雪を考慮した建築など「暮らしやすさ」が「美しさ」につながることもある。
- ・資料の中に羊蹄山のふもとに農地が広がっている写真があるが、この景観を分解すると、「羊蹄山」「農地」「豊かな自然」というような、羊蹄山とそのふもとの民有林（保全されていない場合もある）、人々の営みによる農地の3つによって構成されている。このような「景観の構造」が明確になると、具体的な保全の方向性が分かりやすくなるのではないかと。このほかにも倶知安町にとって大切な「景観の構造」があるのではないかと思う。
- ・緑の基本計画には農業振興地域整備計画で整理しているような農地も入るのか、耕作放棄地への対応など景観計画同様に都市計画区域外も含めて一体として考えていくことが必要であると考えます。

7. 座長及び副座長の選出

(高岸委員)

- ・座長には倶知安町の歴史・文化に造詣が深い矢吹委員を推薦する。

(全員)

- ・意義なし

(矢吹座長)

- ・副座長としては、景観審議会の委員である大萱委員を推薦する。

(全員)

- ・意義なし

8. 議事

(1) 本検討会議での検討事項について

(矢吹座長)

- ・本検討会議の部会として、市街地検討部会と景観地区部会を設置したいと考えている。市街地検討部会の座長としては辻井委員、景観地区検討部会としては笠間委員に部会長をお願いしたい。

(辻井委員・笠間委員)

- ・異議なし

(矢吹座長)

- ・部会の構成員として、市街地検討部会には峠ヶ委員、景観地区検討部会には山田委員、ベン委員、大久保委員を選出したい。

(全員)

- ・異議なし

(2) 次回の検討会議について

(矢吹座長)

- ・次回のフィールドワークとして、倶知安町の景観特性が理解できるようなスポットを巡ることを想定しているが、委員の皆さまから見るべき場所などがあればご発言願いたい。

(山田委員)

- ・パークハイアットの現在建設している建築物は相当に規模が大きく見受けられる。開発の現状を知るために見ておくといいのではないか。

(矢吹座長)

- ・そのほか、良い場所があれば、事務局に提案していただきたい。取りまとめて当日のフィールドワークのルートを選定する。

9. その他

10. 閉会